

令和 8 年度 東京都立神代高等学校（定時制課程） 学校経営計画（案）

1 目指す学校（スクール・ミッション）

本校は、生徒一人一人の「輝き」を磨く学校として、以下の点に留意し、生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校を目指す。

- （1）本校の教育目標「学び、鍛え、輝け」のもと、生徒一人一人の充実した学校生活を実現するため、個々の生徒の能力や個性に合わせたきめ細かな教育活動を行い、社会の一員として自己実現できる力を育成する。
- （2）自律的生活習慣を確立し、規律の中で自主的・自律的に行動できる力を育成するとともに、自ら学ぼうとする姿勢を育成する。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

（1）中期的目標

多様な個性や背景をもつ生徒一人一人にとって、本校が安心して学び集える場となるよう、生活指導・学習指導・進路指導を一体的に行い、自己有用感・自己肯定感を育成する。

基本的な生活習慣や規範意識の定着、基礎学力の向上を図るとともに、行事や自主活動を通して人間関係形成能力と学校への帰属意識を高め、中途退学の防止につなげる。あわせて、キャリア教育を通じて、生徒が主体的に進路を選択・決定できる力を育成する。

（2）中期的目標達成のための方策

① 自律的生活習慣の確立と自主的活動の支援

欠席・遅刻指導や授業規律の徹底により学習環境の安定を図るとともに、ホームルーム活動や行事、部活動等を通して帰属意識を高める。あわせて、体罰根絶といじめの未然防止・早期対応に全校で取り組む。

② 教育相談体制の充実

面接・個別指導を通年でを行い、生徒情報を共有するとともに、外部機関とも連携し、不登校及び不登校傾向の生徒へのきめ細かな支援を行う。あわせて、健康・安全・栄養指導を推進する。

③ 基礎学力の定着と授業改善

年間指導計画に基づく反復指導により学力の定着を図るとともに、興味・関心を喚起する授業改善を推進する。教員相互の授業参観や研修、資格検定への挑戦を通して自己肯定感を育成する。

④ キャリア教育の推進

全ての教育活動にキャリア教育を位置付け、自己理解を基盤として、将来を主体的に考え行動できる力の育成を図る。

⑤ 地域との連携

ボランティア活動や地域清掃活動を通して、社会の一員としての自覚を、地域社会との関わりを深める。

⑥ 組織的な学校運営の推進

教職員の力を生かした組織的運営を推進し、情報共有と連携を強化する。あわせて、効率的な予算管理と服務規律の徹底により、信頼される学校運営に努める。

3 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策

（1）教育活動の目標と方策

① 生活指導

【目標】

生徒一人一人の生活背景や多様な状況に配慮しながら、基本的な生活習慣と規範意識を育成し、安心して学び集える学校生活の基盤を確立する。

【方策】

ア 授業規律と生活規律を一体化し、授業開始・終了時刻を守らせ、授業を「学ぶ最大の機会」として保障する。

イ 教職員全員の共通理解のもと、「いつでも、どこでも、誰でも」対応できる生活指導体制を確立し、いじめ等の問題行動ゼロを目指す。

ウ 学校を生徒の「学習と集いの場」するため、ホームルームを学校生活の基盤として充実させる。

エ 生徒の自主的な活動を促し、基本的な規則に基づき、相手の立場を理解して行動できる力を育成する。

オ 部活動や学校行事への参加を促し、学校への帰属意識を高め、責任と自覚ある行動を育成する。

カ 「身に付けさせる規律・規範」全体計画および生活指導指針に基づき指導を行い、「マナー9か条」の徹底を図る。

② 学習指導

【目標】

生徒の学び直しへの思いや理解の状況を踏まえ、学ぶことへの興味・関心を喚起するとともに、基礎学力の定着と主体的に学ぶ態度を育成する。

【方策】

ア 社会人として必要な基礎・基本的な学力の定着を図るとともに、進学を目指す生徒には補習等、個に応じた学習指導を行う。

イ 提出物や確認テスト等により学習成果を把握し、必要に応じて補習・補講を実施する。

ウ 漢検・数検・英検等の受検を奨励し、目標に向かって努力する姿勢と達成感を育てる。

エ 一人一台端末を活用した授業を通して、デジタル技術への習熟と学習内容の理解深化を図る。

③ 進路指導

【目標】

生徒一人一人の就労状況や将来への考え方に寄り添った計画的な進路指導を通して、勤労観・社会観を育成し、自立に向けた進路実現を支援する。

【方策】

ア 1年次から就労指導を推進し、ハローワークへの相談やパート・アルバイト等の斡旋を通して、仕事を基にした実践的な進路理解を促す。

イ 個別面談や進路ガイダンスをきめ細かく実施し、生徒一人一人が具体的な将来像を描けるよう支援する。

ウ ハローワーク等の外部機関と連携し、進路指導や模擬面接を実施する。

④ 特別活動・部活動・地域との連携

【目標】

学校行事や部活動、地域との関わりを通して、生徒の自主性や協働性を育成するとともに、社会とのつながりを実感させ、自己有用感・肯定感を高める。

【方策】

ア 学校行事や部活動、ボランティア活動等への参加を通して自主的な活動を支援し、仲間や地域と協力して最後までやり遂げる経験を積み、自己有用感・肯定感を育成する。

イ 地域との関わりや清掃活動等を通して社会とのつながりを実感させ、生徒の自尊感情を高めるとともに、地域から信頼され応援される学校づくりを進める。

ウ 他国の文化等に触れ、多様性を尊重する態度を育むとともに、共生社会や国際社会で活躍する資質を養うため、オンライン英会話を実施する。

⑤ 健康づくり

【目標】

生徒一人一人の生活状況や心身の状態に配慮し、心と体の健康の保持・増進を図ることで、安心して学び続けられる学校生活を支援する。

【方策】

ア 健康診断の結果を踏まえ、生徒の心身の健康づくりに学校全体で取り組む。

イ 体力テストの結果を基に、体育における運動量を確保し、体力の維持・向上を図る。

ウ スクールカウンセラーと連携し、組織的な教育相談体制を確立する。

エ 教職員全員が給食指導に関わり、喫食率の向上を図るとともに、食生活への意識を高める。

⑥ 募集・広報活動

【目標】

定時制課程の教育的意義や特色、生徒一人一人に寄り添った支援体制を積極的に発信し、多様な学び直しのニーズに応える学校としての理解促進と入学者の確保を図る。

【方策】

- ア 個別の進学相談等を積極的に行い、本校の特色を丁寧に伝えることで応募者数の増加を図る。
- イ 広報の時期や内容を適切に検討し、訪問時期や説明資料の充実を図る。
- ウ ホームページや SNS の内容を充実させ、情報発信の質と更新回数の向上を図る。

⑦ 学校経営・組織体制

【目標】

定時制課程の特性を踏まえた柔軟で安全な学校運営を行うとともに、教職員が連携して組織的に生徒支援に取り組める体制を整え、教育活動の充実を図る。

【方策】

- ア 予算執行を効率的に行い、落差金等を有効に活用する。
- イ 日常的な施設・設備点検を通して不良箇所・危険箇所に迅速に対応し、安全を確保する。
- ウ 服務事故の根絶やいじめの未然防止・早期発見・対応について校内研修を実施し、全教職員で徹底する。
- エ 業務の精選と効率化を進め、テレワーク等を活用しながら教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- オ オンライン授業を不登校生徒への支援等に活用し、個に応じた指導を充実させる。

(2) 重点目標と方策

① 生徒の主体的活動の支援とホームルーム・部活動・委員会活動等の活性化

生徒の主体的な学校生活への参画を促し、ホームルームや部活動、委員会活動等を通して協働性や達成感を育成するとともに、学校への帰属意識を高める。

【方策】

- ア 学校行事の出席率の更なる向上を図る。
- イ 部活動への加入を促進し、部活動や学校行事などの自主的活動を支援する。
- ウ 地域行事や発表会等への参加を促す。

② 自ら学ぶ姿勢・意欲の向上と授業改革

基礎・基本的な学力の定着を図りながら、自ら学ぼうとする姿勢と意欲を育成し、授業改善を通して学びの質の向上を目指す。

【方策】

- ア 社会人としての基礎・基本的な学力を定着させるとともに、進学希望の生徒に対して補習等を実施する。
- イ 授業開始・終了時刻を厳守し、授業規律を徹底する。
- ウ 教員相互の授業参観や校外研修等を活用し、授業改革・改善を進める。
- エ 資格検定（漢検等）を推奨し、目標に向けて努力することの大切さと達成感を持たせ、学習意欲を喚起する。

③ 個に応じた指導の充実と進路実現

生徒一人一人の多様な状況や課題に応じたきめ細かな支援を充実させるとともに、進路意識の向上を図るとともに、主体的な進路実現を支援する。

【方策】

- ア 「個別の支援教育推進委員会」の継続実施等により、多様な生徒についての情報を共有し、外部機関等との連携・協力を推進して、個に応じた指導の一層の充実を図る。
- イ 外部機関との連携や生徒との個別面談をよりきめ細かく実施し、進路意識の向上を図るとともに、生徒一人一人の進路実現を目指す。

(3) 数値目標

項目	目標値	昨年度実績
学校行事への出席率の増加	80%以上	80.5%
授業に満足する生徒の割合	85%以上	86.5%
教員間の授業参観の平均回数	2回以上	2回
授業規律が保たれていると感じる生徒の割合	95%以上	94.1%
進路決定者の割合	100%	100%